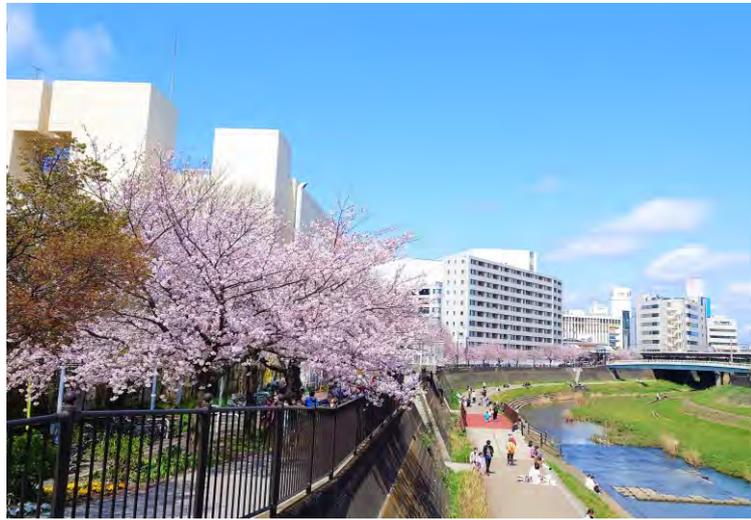


# 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画



令和7年3月  
横浜市戸塚区



はじめに

柏尾川は、戸塚区柏尾町から藤沢市の境川合流点までの延長約11kmの二級河川です。川には多様な生き物や希少なミズキンバイが生息・生育しており、多くの野鳥の飛来も見られます。また、水辺とふれあうための水辺拠点やプロムナードは、地域住民による美化活動やウォーキングなどの健康づくりの場、訪れる人たちの憩いの場等として活用されており、桜が連なる柏尾川の風景は、戸塚区における自然環境や景観のシンボルとして多くの皆様に親しまれています。

平成30年に策定した戸塚区都市計画マスタープランでは、この柏尾川沿いの空間を魅力の軸として位置づけ、「戸塚のシンボル「柏尾川桜並木」を生かした景観・まちづくり」を掲げています。

柏尾川桜並木の歴史は古く、安政3年(1856年)に植樹されたことが始まりとされています。大正～昭和初期には、戸塚駅から大船までの両岸に見事な桜のトンネルが連なり、関東屈指の桜の名所として知られるようになりました。その後も、その長い歴史の中で、第二次世界大戦、昭和後期の河川の堤防改修工事など、伐採と植樹を繰り返してきました。

全滅の危機を何度も乗り越えてきた柏尾川桜並木には、令和6年6月時点で、元町橋から久保橋までのエリアに300本を超える桜が植樹されています。しかし近年、高齢化や病害などで安全管理上、多くの木を伐採せざるを得ず、減少し続けている実情があります。

そこで、区の魅力である「柏尾川桜並木」の桜の減少を食い止め、現在の景観を維持していくため、地域の皆様と協働で桜並木の保全・再生の方法を検討することを目的として「柏尾川桜並木保全・再生計画検討委員会」を設置しました。

この委員会では、柏尾川桜並木の近隣の企業・事業者、自治会町内会、商店会、学校、ボランティア団体の皆様にご参加いただき、散策会も含めて計5回にわたって桜並木の現状と課題、計画の基本方針、将来像などについて議論を重ねてきました。ここでいただいたご意見も踏まえてとりまとめたのがこの「戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画」です。

令和7年度から本計画を基に、区民の皆様や企業、地域と協働で柏尾川桜並木の保全・再生を進め、皆様ともう一度、危機を乗り越えた柏尾川桜並木と共に令和11年(2029年)の区制90周年を迎えたいと考えています。そして、この保全・再生の取組を通じて、区民の皆様の区への愛着の醸成や、地域活性化に取り組み、戸塚ブランドを向上させ、「選ばれる戸塚区」を目指すとともに、将来に向けて柏尾川桜並木の景観を継承していきます。

最後になりますが、1年間にわたり本計画の策定に携わっていただいた、委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

令和7年3月

戸塚区長 近藤 武

# 目次

1 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画の位置づけ	
(1) 背景	1
(2) 目的	3
(3) 対象区域	3
2 柏尾川桜並木の概要	
(1) 柏尾川桜並木とは	4
(2) 柏尾川桜並木の歴史	4
(3) 関連計画	5
(4) 戸塚区民の柏尾川桜並木への想い	6
(5) GREEN×EXPO 2027 (国際園芸博覧会 2027)	8
3 柏尾川桜並木の現況と課題および課題対応のアイデア	
(1) サクラについて	9
(2) 樹木診断の結果	11
(3) 柏尾川桜並木の現況分析	12
(4) 柏尾川桜並木の課題	14
(5) 課題対応のアイデア	16
4 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画	
(1) 保全・再生に向けた目標・基本方針	22
(2) 補植する品種の候補とその特性	23
(3) 植栽方針	25
(4) 維持管理方針	33
(5) 桜並木の将来像	37
5 今後の展開	
(1) ふるさと納税	39
(2) 地域の皆様とともに	39
【参考】	
検討委員会の開催経過と各回における検討の内容	41
【資料】	
参考文献	45
柏尾川桜並木再生・保全計画検討委員会 委員名簿	46

# Ⅰ 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画の位置づけ

## (1) 背景

区内には、柏尾川以外にも阿久和川、川上川の河川沿いに咲く桜をはじめ、品濃中央公園や俣野公園、東俣野中央公園、吉田町大谷第二公園、そして汲沢団地付近など、桜を楽しむスポットが数多くあり、開花時期には、多くの人で賑わいます。

また、区制60周年を記念して区民の皆様からの募集で選ばれた戸塚区の花は「さくら」であり、まさに桜は戸塚区の象徴でもあります。



品濃中央公園の桜



阿久和川沿いの桜



東俣野中央公園の桜



俣野公園の桜



区の花「さくら」

その中でも柏尾川は、昭和32年(1957年)から続く「戸塚桜まつり」の主会場にもなっている戸塚区のシンボルとも言えるエリアです。「戸塚桜まつり」では、「戸塚区民囃子」の歌にのって、柏尾川堤を巡る「花見踊り」のほか、柏尾川河川敷を会場に太鼓演奏などの地域芸能が行われており、毎年大変多くの人で賑わいます。

柏尾川の桜の歴史は古く、江戸時代の安政3年(1856年)に植樹されたことが始まりとされています。その後、明治後期の耕地整理で全て伐採されましたが、堤防工事の竣工を記念して約2,000本の桜を明治41年(1910年)に植樹しました。昭和10年から15年(1935年から1940年)には関東屈指の桜の名所として、与謝野鉄幹、晶子夫妻が一首詠むほどでした。しかし、関東屈指の桜も第二次世界大戦中、手入れが届かなかったことや疎開していった学童の給食用の燃料、残留していた学童の下駄を作るための材料として伐採されたことをきっかけに次々に伐採されたことで、一時、全滅しましたが、終戦の後、昭和28年(1953年)に戸塚の商店会や飲食店、町内の有志が中心になり、ソメイヨシノ2,000本を植樹しました。昭和51年から55年(1976年から1980年)に行われた河川の改修工事により、現存していた約700本の桜のうち措置対象となった450本を伐採し、10年ものの若木350本を植樹しました。平成に入ってから、昭和28年に植樹した桜のうち、約50本について、再生を図ることとし、植え替えや根元改善、新規植樹等を行いました。

平成30年(2018年)3月策定の横浜市都市計画マスタープラン戸塚区プランでは、柏尾川沿いの空間を、「魅力の軸」として位置づけた上で、戸塚区のシンボルとして区民に親しまれている柏尾川桜並木を、戸塚区の景観形成軸として発展させていくこととしています。その一方で、柏尾川桜並木の本数は年々減少し続けています。現存する桜の多くは昭和28年と昭和50年代に植樹されたものであり、高齢化や病害等により倒伏する危険がある桜は安全管理上、伐採せざるを得ないため、特に近年、本数の減少ペースが加速しています。

区民に愛され、戸塚区の景観形成に大きく寄与している戸塚区の花「さくら」については、エリアを限定することなく、区内全体で保全を進めていくことが求められていますが、こうした状況を鑑み、柏尾川桜並木については、特に早急な保全・再生の対応が必要となっています。

## (2) 目的

本計画では、戸塚区のシンボルとして区民に親しまれている柏尾川桜並木における桜の減少を食い止め、健全な生育環境を整えながら現在の景観を維持し、将来に引き継ぐことを目的としています。

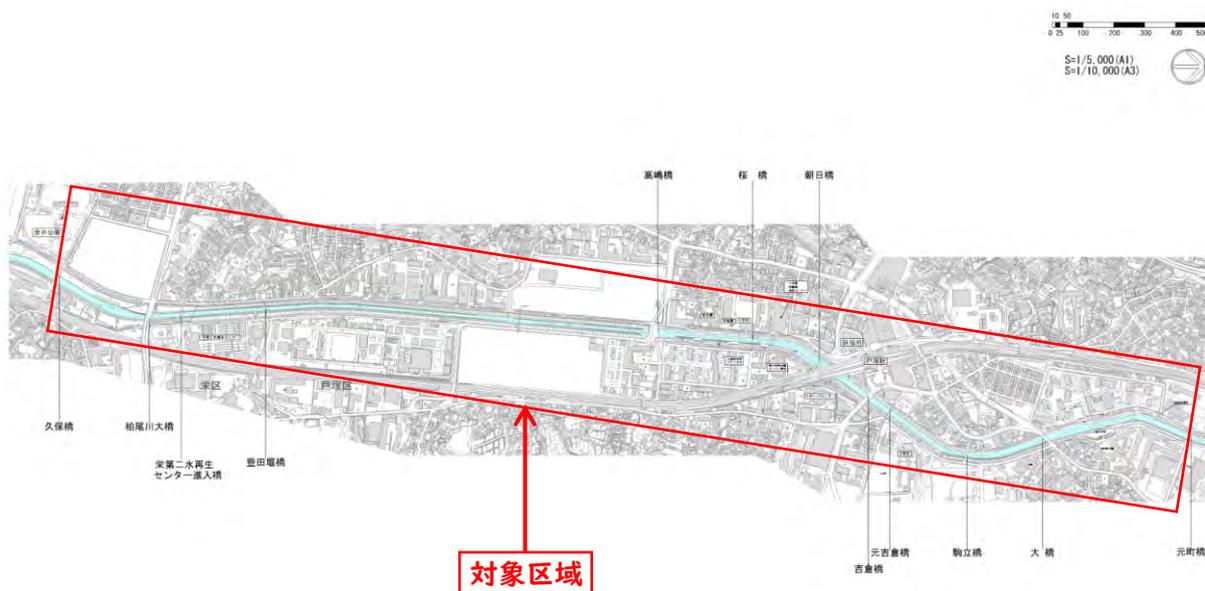
また、横浜市中期計画2022-2025では、「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を「基本戦略」に掲げ、横浜に関わる様々な人・団体の皆様との協働・共創を通じて、横浜の魅力を更に高め、「住みたい都市」「住み続けたい都市」「選ばれる都市」を目指していくこととしています。

柏尾川桜並木の魅力の維持・向上に向け、戸塚区に関わる様々な人・団体の皆様と協働で取組を進め、事業にご参加いただくことで、区への愛着の醸成や地域活性化に取り組み、戸塚区のブランド力を高め、「選ばれる戸塚区」を目指します。

以上を踏まえ、本計画では、現状の課題を整理して、保全・再生に向けた目標を示し、基本方針に基づき、植栽と維持管理の方針を定めるものとします。また、保全・再生を進めるにあたって、ふるさと納税の活用や賑わいの創出など、地域の皆様や企業が行政と協働で進めていく取組を示します。

## (3) 対象区域

柏尾川沿いの元町橋から久保橋の両岸約7kmの「柏尾川プロムナード」



なお、隣接する金井公園側にも桜並木は続いており、栄区とも連携した取組となるよう、検討を進めていきます。

## 2 柏尾川桜並木の概要

### (1) 柏尾川桜並木とは

- 所在 : 戸塚区 元町橋から久保橋  
総延長 : 両岸 約7km  
桜の植樹数 : 約350本(令和6年6月時点)  
主な桜の品種:ソメイヨシノ、カンザン、オオシマザクラ、ヤマザクラ 等

### (2) 柏尾川桜並木の歴史

- 安政3年(1856年) 8月の台風で堤防が切られ、改修した後に植樹  
明治後期 耕地整理のため伐採  
明治43年(1910年) 延長4キロに及ぶ堤防工事が竣工した時に約2,000本の桜を植樹  
昭和10年から15年(1935から1940年) 関東屈指の桜の名所として与謝野鉄幹、晶子夫妻が一首詠む  
与謝野鉄幹  
「ながながと三万人の人影をまじえて霞む堤の桜」  
与謝野晶子  
「咲く花の空につづける幕打ちて正しく走る柏尾川かな」  
「折ふしにいかずちのごと汽車過ぐる柏尾堤の山ざくら花」  
昭和19年(1944年) 第二次世界大戦により、手入れがとどかなかったこと、疎開していった学童の給食の炊飯用の燃料、残留していた学童の下駄をつくるための材料として200本伐採、その後、次々に伐採され、一時は全滅  
昭和28年(1953年) 戸塚の商店会や飲食店・芸妓の二業組合、町内の有志が中心になり、約100万円を集め、ソメイヨシノ2,000本を植樹  
昭和51年から55年(1976から1980年) 改修工事により現存700本中、措置対象となった450本を伐採、10年ものの若木350本を植樹  
平成16年から20年(2004から2008年) 戸塚小学校前(朝日橋~高嶋橋)9本伐採、17本植樹



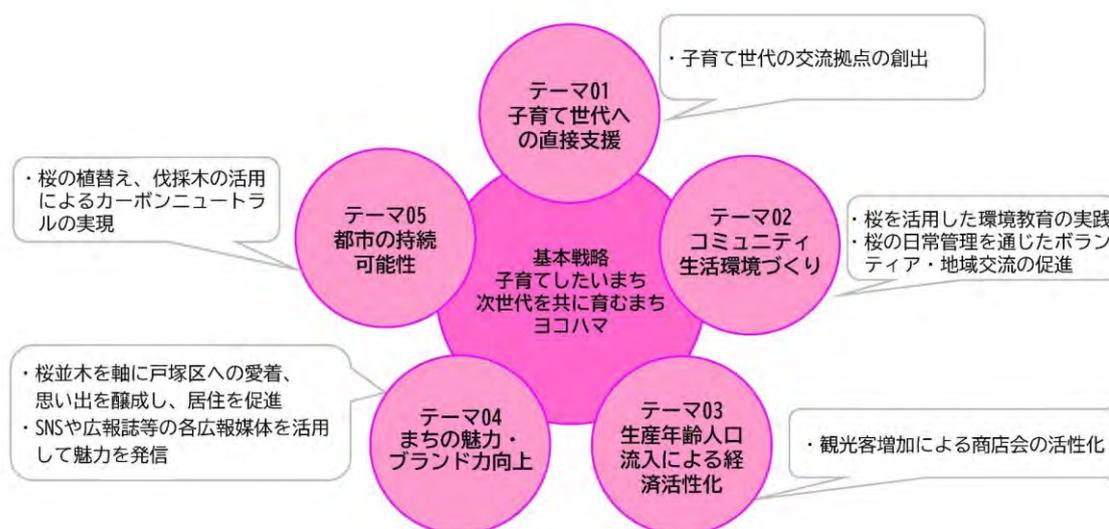
昔の柏尾川の様子

### (3) 関連計画

#### 1) 横浜市中期計画2022～2025

「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を「基本戦略」に掲げ、横浜に関わる様々な人・団体の皆様との協働・共創を通じて、横浜の魅力を更に高め、「住みたい都市」「住み続けたい都市」「選ばれる都市」を目指していくこととしています。

基本戦略の実現に向け、5つのテーマを掲げていますが、柏尾川桜並木の保全・再生の取組は、5つのテーマすべてに通じる取組です。



#### 2) 横浜市都市計画マスタープラン戸塚区プラン

「戸塚のまちづくり」(平成30年3月)

<概要>

横浜市における都市計画マスタープランは、「全体構想」と「地域別構想」を基本とし、地域別構想として「区プラン」及びより詳細な「地区プラン」の2種類で構成されています。全体構想については「横浜市都市計画マスタープラン全体構想」が策定されており、「横浜市都市計画マスタープラン戸塚区プラン」は地域別構想に当たり、基本的な目標年次は、概ね20年後の令和19年(2037年)として策定したものです。

<関連する方針>都市の魅力と活力の方針

地域資源を生かしたまちづくり【川と桜、景観づくり】

戸塚のシンボルとして区民に親しまれている柏尾川の桜並木を、景観形成軸として更に発展させるため桜の植樹や更新、高水敷の活用等によるプロムナードの整備を進めます。

### 3) 健康みちづくり推進事業実施計画(平成28年3月)

#### <概要>

横浜市では、健康寿命日本一を目指し、全市民で取り組む健康づくりを進めています。「健康みちづくり推進事業」は市民の皆様の健康増進や外出意欲の向上に資する歩行空間を整備することにより、楽しみながら健康づくりに取り組める場を創出するとともに一人ひとりの健康寿命を延ばし、いきいきと楽しく暮らせる活力ある横浜を創ることを目的とした事業です。本実施計画は、同事業の実施における基本的な考え方、標準的な整備メニュー、整備を予定するルート計画等を定めるものです。

戸塚区では、「幅広い年齢層が触れ合える柏尾川ルート」を各区版のルート計画として設定しています。

### 4) 戸塚駅周辺地区 住み続けたいまち・みちづくりプラン(平成31年2月)

#### <概要>

本プランは戸塚駅周辺の利便性や魅力を高めるまちづくりを一体的に図るため駅周辺のみちづくりについて取組の方向性等を位置付けたものです。「柏尾川沿いの水辺の魅力向上」に向け、健康みちづくりによるプロムナードの魅力向上などについて実施することとしています。

## (4) 戸塚区民の柏尾川桜並木への想い

### 1) 令和5年度戸塚区区民意識調査結果

戸塚区では、戸塚区民の日常生活の意識や要望を統計的に捉え、今後の区政運営の基礎資料として役立てることを目的に、令和5年6月から7月にかけて、戸塚区内在住の満18歳以上の男女4,000人を対象に「令和5年度戸塚区区民意識調査」を実施しました。(そのうち回答のあった2,169件が集計対象。)

「区の代表的な景観である、柏尾川の桜並木の保全」について、区が取り組むべきこととして「重要」、「やや重要」との回答が約7割と、保全が必要だと考えている区民が多いことが分かりました。

また年代別では、「重要」、「やや重要」を選択した割合が10代で最も高く、約8割にのぼり、若い世代においても柏尾川の桜並木に高い関心があることが分かりました。

2) 第1回柏尾川桜並木保全・再生計画検討委員会「柏尾川の桜並木に対する私の思い」

第1回柏尾川桜並木保全・再生計画検討委員会の自己紹介において、検討委員一人ひとりが「柏尾川の桜並木に対する私の思い」を書いて発表しました。その中から一部抜粋してご紹介します。

柏尾川の 桜並木に対する  
私の思い

将来世代とともに  
未来をつくる!

戸塚の街を  
みんなでつくる!

柏尾川の 桜並木に対する  
私の思い

桜の名所になって  
戸塚に住みたい、直ぐ  
に行きたいと、思っている  
ようにしてほしい!!

柏尾川の 桜並木に対する  
私の思い

桜並木を戸塚  
のシンボルとして  
皆様に育て  
たい!

柏尾川の 桜並木に対する  
私の思い

校舎から見る  
桜並木は  
子どもたちにとっても  
心のいやしです。

柏尾川の 桜並木に対する  
私の思い

私の大好きな  
散歩道です。

柏尾川の 桜並木に対する  
私の思い

未来の桜たち  
残したい景色

## (5) GREEN×EXPO 2027 (国際園芸博覧会2027)

### <開催概要>

テーマ:幸せを創る明日の風景

開催期間:2027年3月19日(金)~9月26日(日)

開催場所:神奈川県横浜市・旧上瀬谷通信施設

博覧会区域:約100ha(内、会場区域80ha)

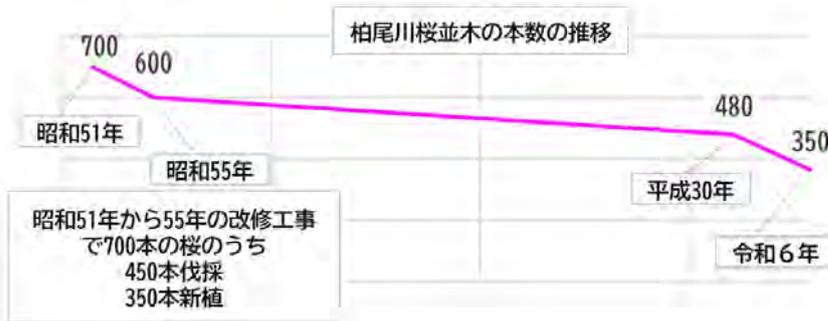
クラス:AI(再上位)クラス(AIPH承認+BIE認定)

GREEN×EXPO 2027 の成功に向け、柏尾川桜並木の保全・再生の取組を通じて、広報PRを進めるとともに機運醸成を図ります。

### 3 柏尾川桜並木の現況と課題および課題対応のアイデア

老齢化や病害等により倒伏する危険があるサクラは安全管理上、伐採せざるを得ません。そのため、柏尾川桜並木のサクラの本数は減少しています。

柏尾川桜並木を将来に引き継ぐために、現況と課題を把握し、その理想的な対応方法として考えられる課題対応のアイデアを示します。



【伐採したサクラ】

#### (1) サクラについて

日本には500種以上のサクラがあると言われています。サクラ全般および、柏尾川沿いに多く植えられているソメイヨシノには、次のような特徴があります。

##### 1) サクラについて

###### ① 日当たりを好む

日当たりが悪いと生育衰退を招きます。樹形が乱れるものや、枯れ枝の発生が多くなります。

###### ② 腐朽しやすい

大枝の剪定や根の切断等により、切り口から菌が侵入し、腐朽が進行します。被害を防ぐためには、適切な剪定を行い、大きな切り口を作らない、また、根を傷つけないようにすることがポイントです。

特にベッコウタケの寄生はサクラの根株を腐朽させるために、倒伏する危険性が高くなり注意が必要です。



ベッコウタケ

###### ③ 病気や虫がつきやすい

サクラは他の樹木に比べて、病虫害にかかりやすく、次のような被害が見られます。  
主な病害：ナラタケ・ナラタケモドキによる病気、てんぐ巣病、増生病（枝のコブ症状）等  
主な虫害：コスカシバ、モンクロシャチホコ、クビアカツヤカミキリ等

④根の張りが浅く、土壌の環境に影響を受けやすい

サクラは基本的に根を浅く、広く張る樹種です。地表近くに多くの根を伸ばすことにより、生育に必要な酸素を吸収しています。そのため、土が固く、通気性などの土壌環境が悪いと樹勢が衰えます。

サクラを健全に生育させ、長く保全するためには、土壌すなわち植栽基盤の整備が重要です。

⑤いや地現象が見られる

「いや地」とは、連作障害に似た現象で、もともとサクラが植えられていた場所に新しいサクラの苗を植えても、健全に生育しにくいというものです。

いや地を解消するためには、土壌の入れ替えや堆肥の混合など、土壌改良を行うことが有効です。

2)ソメイヨシノについて

江戸時代後期に、エドヒガンとオオシマザクラを掛け合わせて作り出された栽培種です。明治時代に全国で広く植栽されるようになり、現在では、サクラといえばソメイヨシノというほどになっています。

①生長が早く大木になる

②てんぐ巣病の被害が大きい

てんぐ巣病は、カビの一種による伝染病です。花が咲かなくなり、いずれ枯死します。

柏尾川桜並木においては、令和6年4月に踏査した限りでは発生は確認されませんでした。



てんぐ巣病(国立市 2023)

③枝のコブ症状による枝枯れが広がっている

約10年前から、日本各地で増生症状(枝のコブ症状)が見られるようになりました。伝染性の病害であると考えられていますが、コブ症状が発生する原因は不明なため、切除するしか対策がない状況です。

柏尾川桜並木においては、令和6年4月に踏査した限りでは発生は確認されませんでした。



コブ症状 千鳥ヶ淵の状況

#### ④自己再生能力が高い

樹勢衰退が進み、大枝が枯れたサクラでも、胴ぶき枝(※1)が生長することによって、新たな大枝となることがあります。また幹に空洞ができた場合でも、空洞内部から不定根(※2)が発生し、これが伸びて地面に達して、根の機能を果たす場合があります。

ソメイヨシノは、こうした自己再生能力が高いことから、樹勢衰退によって樹形が乱れた場合でも、自力で樹形を再生させることがよくあります。

※1 幹や枝の途中から新たに伸びてくる枝

※2 挿し木などによって幹や枝から発生する根を不定根と呼ぶ(これに対して、種から発根した根を定根と呼ぶ)

幹の空洞では水分や湿度が保たれ易いことから、不定根が自然に発生することがある

老齢樹になると病虫害や腐朽によって傷みが進むことは避けられません。第二次世界大戦後に全国で多く植えられたソメイヨシノは、樹勢の低下が見られ、枝折れや倒伏が問題になっています。

近年では、ソメイヨシノの代替品種としてジンダイアケボノが推奨されるようになりました。ジンダイアケボノは、ソメイヨシノよりもてんぐ巣病にかかりにくいと言われており、開花時期や花の特徴がソメイヨシノに似ている品種です。

## (2) 樹木診断の結果

横浜市では、原則5年に1回、定期的に樹木医による樹木診断を実施しています。柏尾川桜並木における直近の診断は令和5年度に実施しており、444本のサクラを診断しました。そのうち94本について、幹の空洞化やベッコウタケの寄生等が確認され、倒伏する危険があると診断されたため、令和5~6年度に伐採しました。

### 【令和5~6年度 伐採前後のサクラの本数】



### (3) 柏尾川桜並木の現況分析

より細かく現況を把握し、分析するために、柏尾川桜並木を、サクラの植栽状況等を踏まえて A～G の7つのエリアに区分しました。また、エリアごとに現況を把握、分析した結果（令和6年4月時点）を、現況分析図（図 3-1）としてまとめました。

エリア A: サクラが密に植えられているエリア（右岸）

主な品種: ソメイヨシノ

エリア B: サクラが川沿いから離れるエリア

主な品種: カンザン

エリア C: サクラが密に植えられているエリア（左岸）

主な品種: ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラの混植

エリア D: サクラに枯れ枝が多く見られるエリア

主な品種: ソメイヨシノ

エリア E: 戸塚桜まつりエリア

主な品種: ソメイヨシノ

エリア F: サクラがほとんどないエリア

主な品種: ソメイヨシノ

エリア G: 現状大きな問題のないエリア

主な品種: ソメイヨシノ、カンザン

分析のポイントは、植栽されているサクラの品種、サクラの樹勢、植栽間隔、植栽柵・植栽帯の別、大きさ、根上がり、歩道面の不陸（※）の状況などとししました。

なお、令和5年度に実施した樹木診断において、倒伏する危険があると診断されたサクラは、令和6年6月までにすべて伐採しています。

※ 地面が水平でなく、凸凹があること

# 現況分析図 (図3-1)



※樹木のプロットは令和5年度樹木診断の結果による  
 ※現況分析は令和6年4月時点の状況に基づく

#### (4) 柏尾川桜並木の課題

現況分析の結果から抽出された課題は、①～⑤のとおりです。なお、令和6年6月までに倒伏する危険があるとされたサクラを伐採した後の状況で課題の検討を行いました。

##### 課題① 伐採後、空間があいている

令和5年度の樹木診断により、倒伏する危険があるサクラをすべて伐採したことにより、連続して複数本のサクラがなくなってしまう、隣り合うサクラ同士の距離が大きくあいてしまっている箇所がある。

##### 課題② サクラの間隔が狭い

サクラとサクラの植栽間隔が5～6m程度となり、近接してしまっている。

##### 課題③ 樹勢が衰えていたり、枯れ枝が多いサクラがある

枯れ枝が多く見られたり、木の上の方から新しい枝が出ていないなど樹勢の衰えが見られるサクラがある。

##### 課題④ 根上がり、不陸が見られる箇所がある

サクラが生長するにつれ根が太くなることで、歩道の縁石や舗装を持ち上げ、歩道がでこぼこになっている箇所がある。

##### 課題⑤ 車道の建築限界(※)の維持に配慮が必要な箇所がある

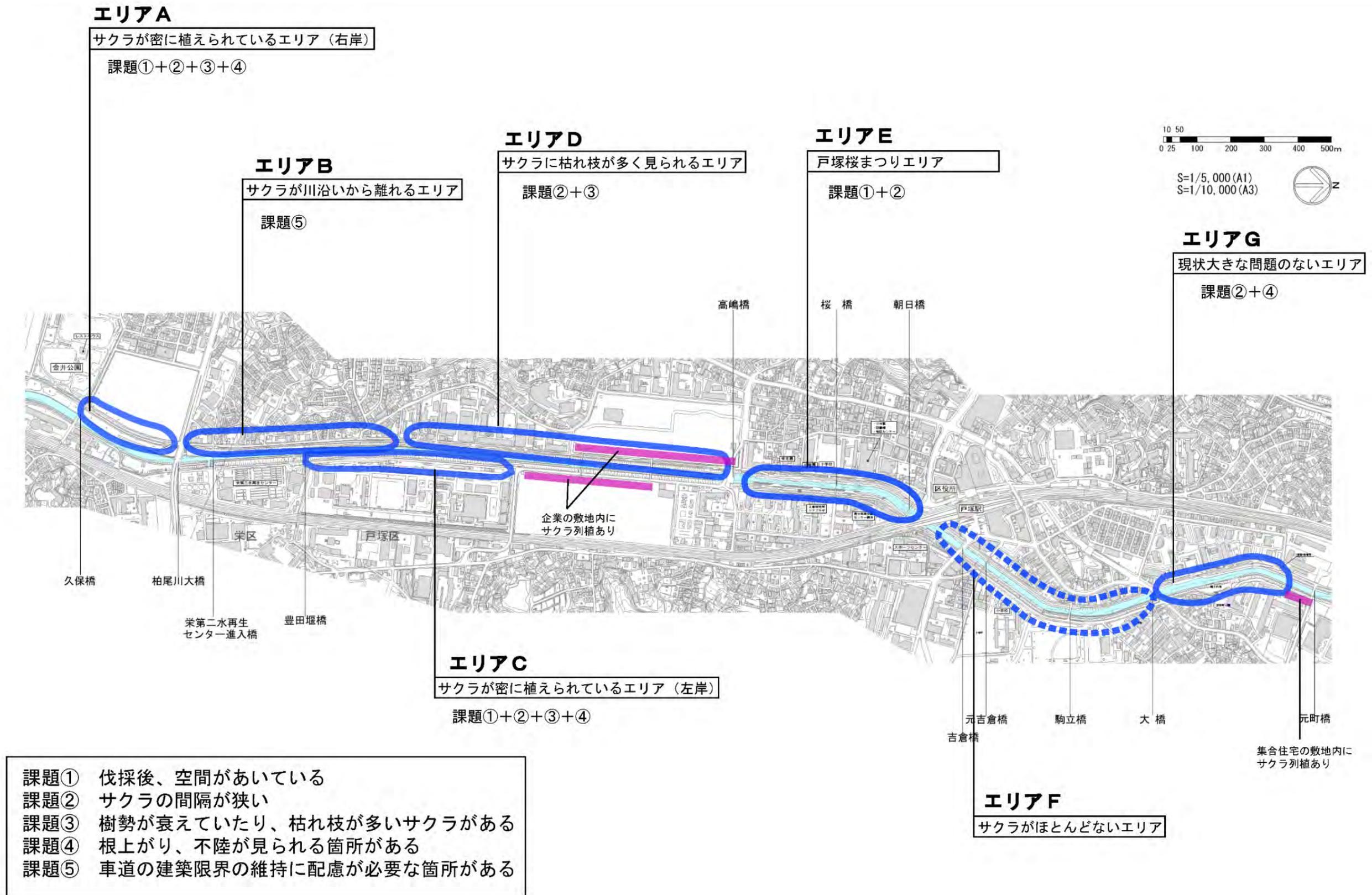
サクラが車道に面して植えられているため、車道の建築限界の維持に配慮が必要な箇所がある。

課題①～⑤について、A～Gの7つのエリアごとに整理し、課題図(図3-2)としました。

「課題②」は、サクラが植えられているほぼ全域で該当する箇所が見られました。「課題①」を見ても、植栽間隔が狭い箇所で生じているケースが多く、植栽間隔の狭さが樹勢の衰えにつながる要因のひとつであると考えられます。

※ 道路法第30条及び道路構造令第12条では、道路上の安全な通行を確保するため、車道の上空4.5m、歩道の上空2.5mの範囲内に障害となるものを置いてはならないとしている

課題図 (図3-2)



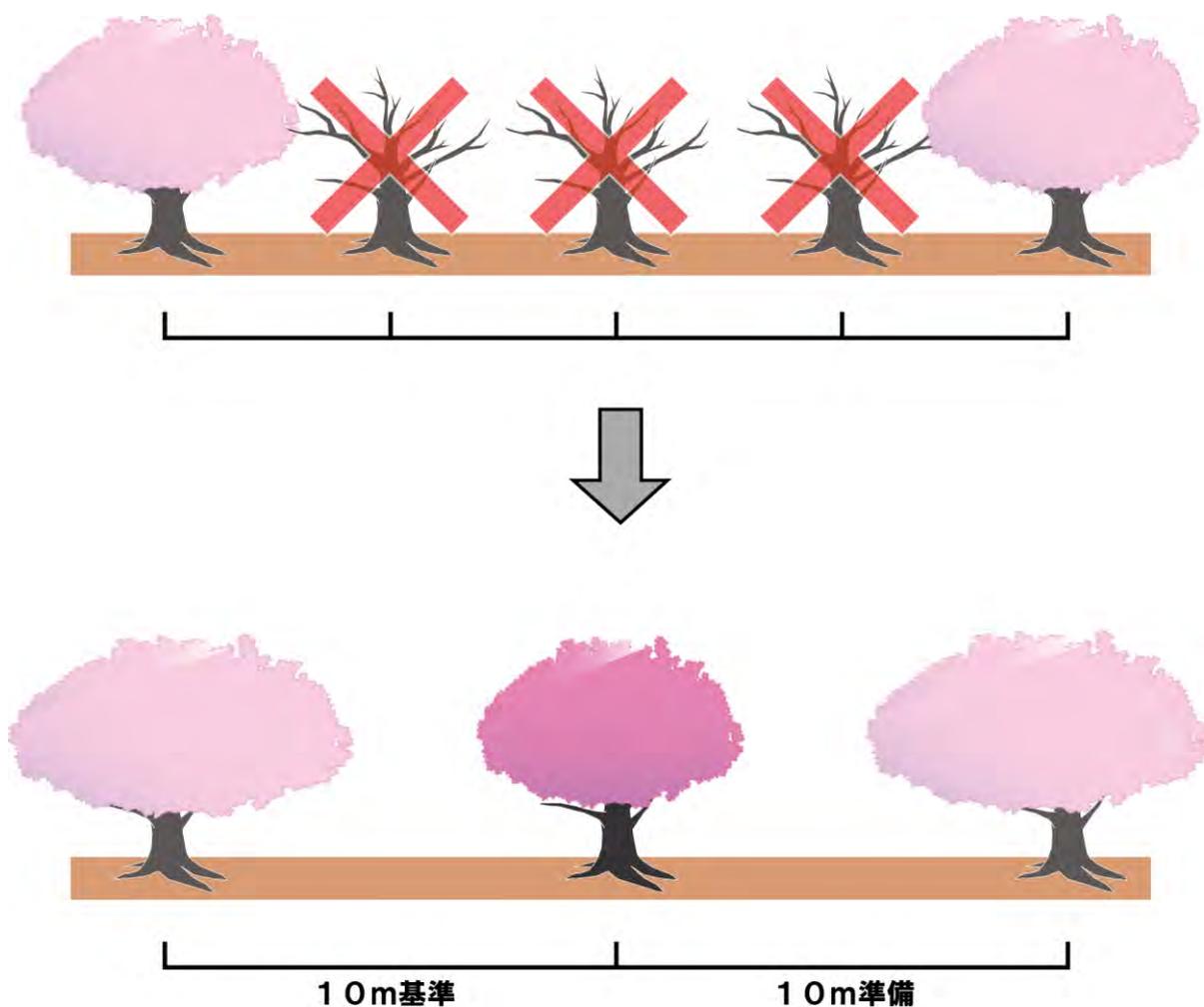
### (5) 課題対応のアイデア

①～⑤の課題それぞれについて、理想的な対応方法として考えられる課題対応のアイデアを次のとおり示します。

#### 課題① 伐採後、空間があいている

連続して複数本、伐採した場合

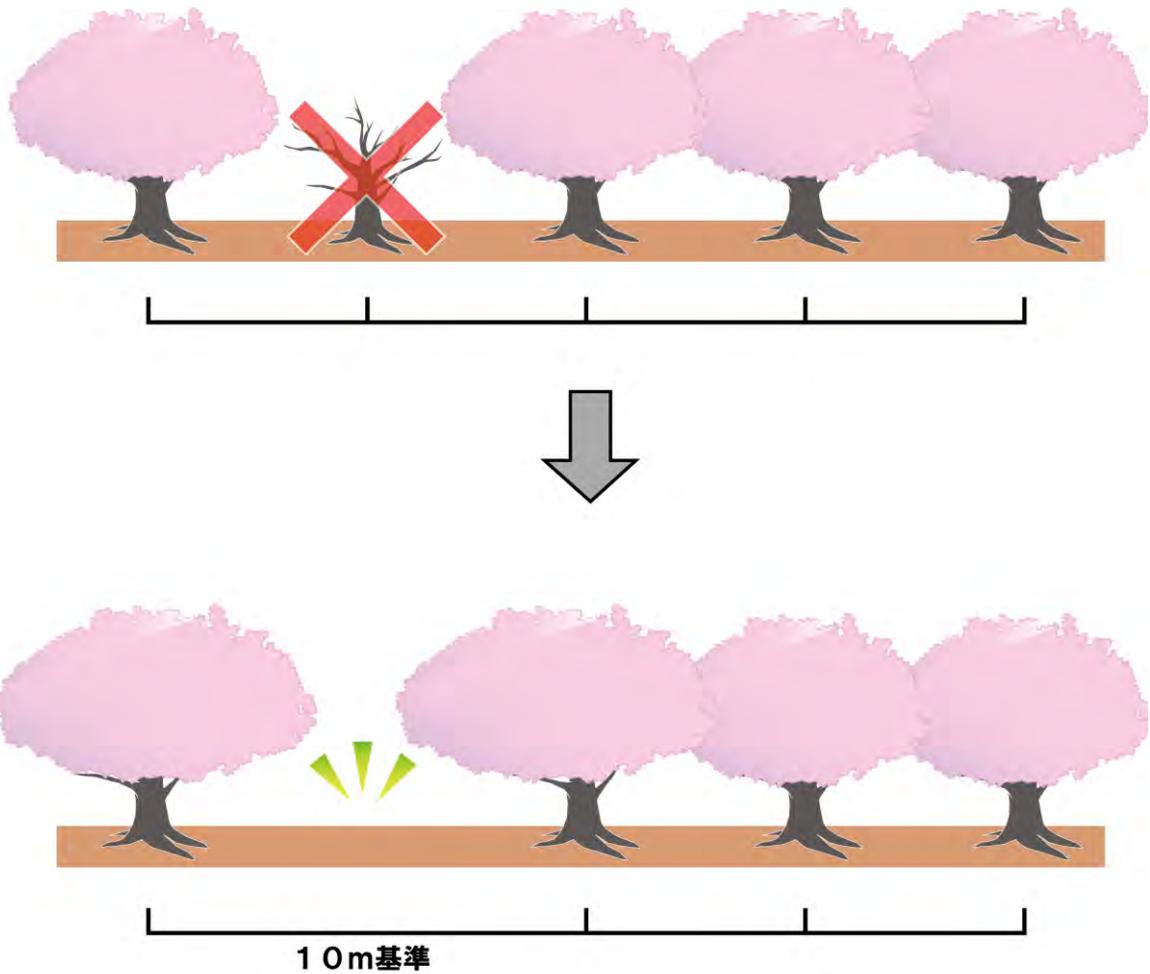
または、間隔が広いところのサクラを伐採した場合



- ・ 10m間隔を基準としてサクラを植える

## 課題② サクラの間隔が狭い

間隔が狭いところのサクラを伐採した場合



- ・補植はせず、両脇のサクラを伸び伸び育てる

### 課題③ 樹勢が衰えていたり、枯れ枝が多いサクラがある

#### 【原因】

- ・周囲の高木等による日照不足
- ・サクラ同士の間隔が狭いことによる日照不足
- ・土壌状態(排水性、保水性、土壌硬度等)の不良
- ・不適切な剪定や根の切断によって菌類に侵される



樹勢回復のための管理が必要である

#### 1)日照の改善

- ・周囲の高木や実生木が大きくなり日照を遮っている場合、周囲の高木の伐採や剪定を行い、サクラに十分に日光が当たるようにする。

#### 2)土壌の改善

- ・サクラの根元にたて穴を掘り、土壌改良材や肥料を混ぜて埋め戻す。特に土が固いところでは、水はけも良くなり、有効である。竹筒を埋め込み、通水性や通気性を改善する方法もある。

土壌改良作業のイメージ  
ダブルスコップによる掘削



掘り上げた穴



埋め戻し用土壌改良材



埋め戻し作業

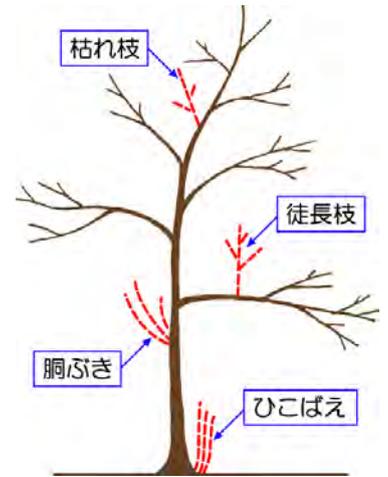


竹筒を用いた方法 (写真提供:戸塚桜セーバー)

### 3)適切な剪定・枯れ枝除去

- ・枝の若返りを図る
- ・日照不足改善のため、混みすぎた枝の除去
- ・徒長枝、ひこばえ、胴ぶきなど、生育上不要な枝の剪定
- ・枝、幹、根は極力傷つけないよう留意する

※剪定した切り口や傷口は、うまく塞がらないと菌が侵入する入口となってしまうため、大きな切り口を作らないように適切に剪定作業を行う



#### 課題⑤ 車道の建築限界の維持に配慮が必要な箇所がある

についても、適切な剪定作業を行うことで、車道の通行の妨げになることを防ぐことができる。

### 4)踏圧防止対策

サクラ周辺の土が踏み固められると、土の通水性や通気性が悪くなってしまう。そのため、人が立ち入らないような工夫が必要となる。

- ・草花や地被類を植栽する



- ・人止め柵の設置



#### 【実施にあたって】

行政だけでなく、地域とも協働して維持管理をしていく仕組みづくりの検討が必要である。

## 課題④ 根上がり、不陸が見られる箇所がある



### 【原因】

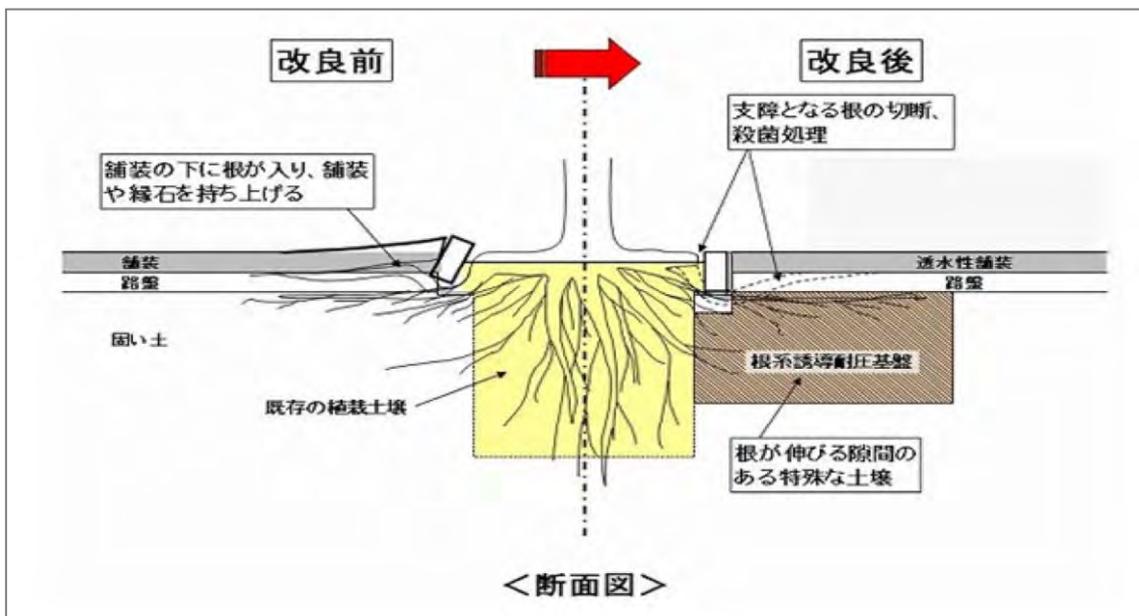
もともとサクラは、浅いところにも根が多く広がって生長するという性質がある。  
さらに、街路樹の場合、舗装面の下部が固いため、空気や水を求めて地表近くに根を伸ばし、その根が生長することで舗装が持ち上げられ、不陸が起こる



地中にしっかり根を張れるようにすると、根上がり、不陸は軽減される

### ■植え替えの際の根上がり対策

サクラを植え替える際、根上りの再発を抑えるための対策を施します。



横浜市 HP「街路樹の根上がり対策」より

## 4 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画

「3 柏尾川桜並木の現況と課題および課題対応のアイデア」を踏まえ、保全・再生計画を示します。

「将来に向けて柏尾川桜並木の景観を継承していく」ことを目標にサクラの減少を食い止め、健全に生育できる環境を整備し、現在の景観を維持しながら、未来に引き継いでいきます。

戸塚駅近辺の戸塚桜まつりが開催されるエリアから植栽工事を行い、柏尾川桜並木の保全・再生に取り組みます。

地域と行政が協働して維持管理を行う仕組みづくりを検討します。また、ふるさと納税制度を活用した財源確保に取り組み、地域と行政が共に柏尾川桜並木を守り、地域に愛され、人々が集まる場所を目指します。

### 【戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画の全体像】



### (1) 保全・再生に向けた目標・基本方針

「3 柏尾川桜並木の現況と課題および課題対応のアイデア」を踏まえ、柏尾川桜並木の保全・再生に向けた目標・基本方針を示します。

#### **【目標】**

#### **将来に向けて柏尾川桜並木の景観を継承していく**

#### **【基本方針】**

- 主となる品種をソメイヨシノからジンダイアケボノに転換
- サクラが健全に生育できる環境を整備
- 既存のサクラを生かした景観形成
- 植栽場所に適した品種の選定
- 地域と行政が協働し、維持管理を行う仕組みづくりを検討

## (2) 補植する品種の候補とその特性

柏尾川桜並木において、補植する場合の候補として、8品種(ソメイヨシノ、ジンダイアケボノ、カンザン、イチヨウ、ベニユタカ、マイヒメ、オカメ、ヨコハマヒザクラ)を示します。その特性は「サクラ類候補の品種とその特性(図 4-1)」のとおりです。

なお、「3(1) 2)ソメイヨシノについて」で触れたように、ソメイヨシノは比較的病害に弱い品種であることから、より病害に強く、咲く時期や樹形等から代替品種としても広く用いられている、ジンダイアケボノに転換していきます。

また、植栽場所が狭い場所には、比較的狭い場所でも植えられる品種を選定します。

### ジンダイアケボノの特徴

- てんぐ巢病にかかりにくいと言われている
- 開花時期や花の特徴がソメイヨシノと近い  
(開花時期はソメイヨシノより少し早く、花の色はソメイヨシノより少し濃い)
- ただし、比較的新しい品種なので、不明なこともある



横浜市金沢区西柴のジンダイアケボノの桜並木

■サクラ類候補の品種とその特性 (図4-1)

		広い場所に植えるのが望ましい品種		狭い場所でも植えられる品種					
品種名		ソメイヨシノ 染井吉野	ジンダイアケボノ 神代曙	カンザン 関山	イチヨウ 一葉	ベニユタカ 紅豊	マイヒメ 舞姫	オカメ ー	ヨコハマヒザクラ 横浜緋桜
品種としての特性	概要	日本のサクラの代表的な品種で広く植栽されている	ソメイヨシノに替わる品種として推奨されている	八重桜として広く植栽されており、関東では一番よく見られる	八重桜の中では、比較的早く咲き、ソメイヨシノに次いで咲く	紅色豊かな八重桜 他の八重咲き大輪の品種に先駆けて開花する	2011年8月に種苗法に基づき品種登録された新しい品種	早咲きのサクラで、低木で大きくならないことから、鉢植えや庭木として普及している	横浜で作出された早咲きのサクラ 1985年3月に種苗法に基づき品種登録された
	来歴	江戸時代後期に江戸の染井村で作出された	調布市の神代植物園に植栽されている「曙」の中から見出され1989年に命名されたもの	江戸時代後期から栽培されている八重桜	江戸時代後期から栽培されている八重桜	北海道松前町の育種家、浅利政俊によって1961年に作出された	結城市にある日本花の会の桜見本園で、園長であった田中秀明によって選抜・育成された	イギリスのサクラ研究者イングラムが1947年に発表した品種	横浜市の白井勲によって作出された
	素性	オオシマザクラとエドヒガンの種間雑種	エドヒガンと他の品種との雑種と考えられている	明治期に東京の荒川堤に植えられていたものから全国に広がった	明治期に東京の荒川堤に植えられていたものから広がった	マツマエハヤザキとリュウウンインペニヤエの交配によるもの	ヤエベニシダレの実生個体から選抜されたもの	カンヒザクラとマメザクラの交配で作出	ケンロクエンクマガイ(兼六園熊谷)にカンヒザクラを交配によるもの
木の特性	大きさ	高木	高木	高木	高木	亜高木	高木	低木	亜高木
	樹形	傘状 	傘状 	盃状 	広卵状 	広卵状 	盃状 	広卵状 	広卵状 
	その他	成長が早く、大径木になる枝は横に広がる	樹形はソメイヨシノに類似しているが、ソメイヨシノに比べ大きくはならない	枝は若木のうちは斜上するが、年を経ると下垂する	***	***	生育が旺盛で花着きがよいので、苗木を植栽してから開花までの年数が短い	高さ3m程度の低木 枝は斜上し横にはあまり広がらない	枝は斜上する
花の特性	花期	3月下旬	3月下旬	4月上旬	4月上旬	4月上旬	3月下旬～4月上旬	3月中旬	3月上旬～3月中旬
	花の色	淡紅	淡紅	濃紅	淡紅	濃紅	淡紅	紫紅	紅
	咲き方・大きさ	一重咲・中輪	一重咲・中輪	八重咲・大輪	八重咲・大輪	八重咲・大輪	八重咲・中輪	一重咲・小輪	一重咲・中輪
	花の写真								
	その他	***	開花の後に葉が展開する	***	八重桜の中では花期が早いめしへの1本が葉化している	開花の後に葉が展開する	開花の後に新葉が展開するため、開花時のボリューム感がある	早咲き・多花性	開花の後に葉が展開する 花は平開咲きで大輪で、花色は鮮明である
景観的な評価		サクラの代表品種 多くの人にとって最も馴染みのある品種	ソメイヨシノに比べやや早い、ほぼ同時期に開花する 花の色は、やや濃い	ソメイヨシノの後に開花する 観桜期間が長くなる	ソメイヨシノに続いて開花する	ソメイヨシノに続いて開花する八重桜 紅色豊かで重弁のサクラ	ソメイヨシノにやや遅れて開花する 樹全体が花で覆われる観賞性が高い品種	ソメイヨシノに先駆けて開花する 花の色は紫紅 添景木	ソメイヨシノに先駆けて開花する 花の色は紅色で濃く、鮮明である
管理性		てんぐ巣病、増生病に弱い 大径木となることから、根上がりなどの被害が発生しやすい	てんぐ巣病には罹りにくい 増生病に対しても強い可能性がある	寒さや病虫害に強く、利用しやすい 八重桜の中では、樹勢は強健	八重桜の中では、樹勢は強健	亜高木であることから、根上がりなどの被害は発生しにくい	エドヒガン系なので病害虫の被害に強く、長命となる可能性がある	低木であることから、管理上の問題は少ない	亜高木であることから、根上がりなどの被害は発生しにくい
柏尾川桜並木での植栽状況		植栽されているサクラの大部分を占めている	植栽あり	植栽あり 植列されている箇所あり	なし	なし	なし	植栽あり	植栽あり
柏尾川に植えた際のメリット・デメリット	メリット	ソメイヨシノによる景観の連続性	ソメイヨシノに比べ成長はやや遅い。その分、根上りの影響が小さい可能性がある。	桜景観の多様性 観桜期間の延長	桜景観の多様性 観桜期間の延長	桜景観の多様性	桜景観の多様性	桜景観の多様性 木が小さいので根上がりや通行障害の恐れがない	横浜にゆかりのあるサクラ 桜景観の多様性 ソメイヨシノより早く開花する
	デメリット	根上りの可能性 増生病の被害の可能性	新しい品種 ソメイヨシノの代替品種として植えられやすくなる	***	***	新しい品種で 植栽実績はまだ少ない	新しい品種で 植栽実績はまだ少ない	***	***
評価・利用適性		ソメイヨシノによる連続性の確保 植栽空間に余裕がある場合に用いる	ソメイヨシノの代替品種として用いる	カンザンによる連続性の確保 植栽空間に余裕がない場合の植栽	カンザンとの併用 植栽空間に余裕がない場合の植栽	桜景観に彩りをもたらす品種として用いる 植栽空間に余裕がない場合の植栽	桜景観に彩りをもたらす品種として用いる 植栽空間に余裕がない場合の植栽	添景木として、スポット的に利用する 植栽空間に余裕がない場合の植栽	桜景観に彩りをもたらす品種として用いる 植栽空間に余裕がない場合の植栽

### (3) 植栽方針

「4(1) 保全・再生に向けた目標・基本方針」に基づき、柏尾川桜並木の植栽方針を次のとおりとします。

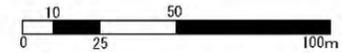
- ・今あるサクラをなるべく生かす
- ・樹木診断により倒伏する危険があるとされたサクラは伐採する
- ・あいた箇所には、10m間隔を基準として適切な間隔をあけてサクラを補植する
- ・間隔が狭い場所には補植せず、10m間隔を保ってサクラをのびのびと育てる
- ・補植するサクラの品種は、ジンダイアケボノを基本とするが、植栽柵や植栽帯の大きさに適した品種を選定する
- ・植え替える際には根上がりの再発を抑えるための対策を施す
- ・戸塚駅近辺の戸塚桜まつりが開催されるエリアから植栽工事を行う

以上の考え方から、P.26 から P.32 のとおり、柏尾川桜並木の A~G のエリアごとの方針を示します。

# エリアA

## 【方針】

連続した桜並木景観を維持するため、  
ソメイヨシノと近い時期に開花するジンダイアケボノを補植する  
将来的にはジンダイアケボノの並木を形成する



### 金井公園

#### 既存(ソメイヨシノ)ゾーン

今あるサクラを生かす  
補植する際は、10m間隔を基準  
としてジンダイアケボノを植える



#### ジンダイアケボノ補植ゾーン

補植する際は、10m間隔を基準として  
ジンダイアケボノを植える  
当面は、既存のソメイヨシノとの混植となる

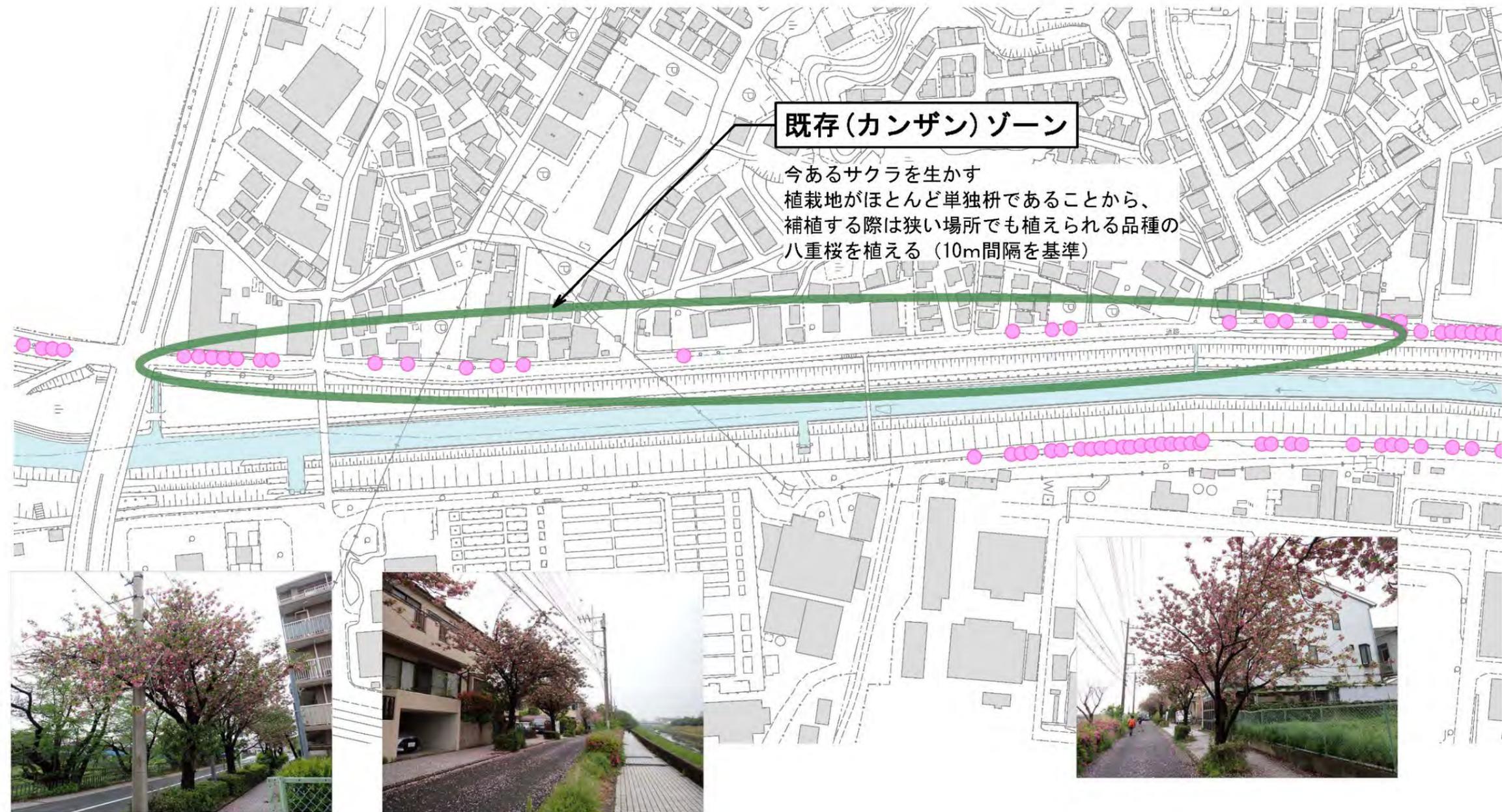
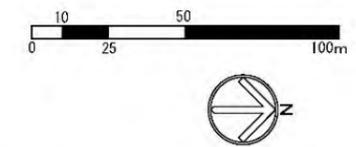


栄第二水戸

● : 令和6年11月時点のサクラ位置

# エリアB

**【方針】**  
既存のカンザンを生かし、道路沿いの八重桜の並木を形成する

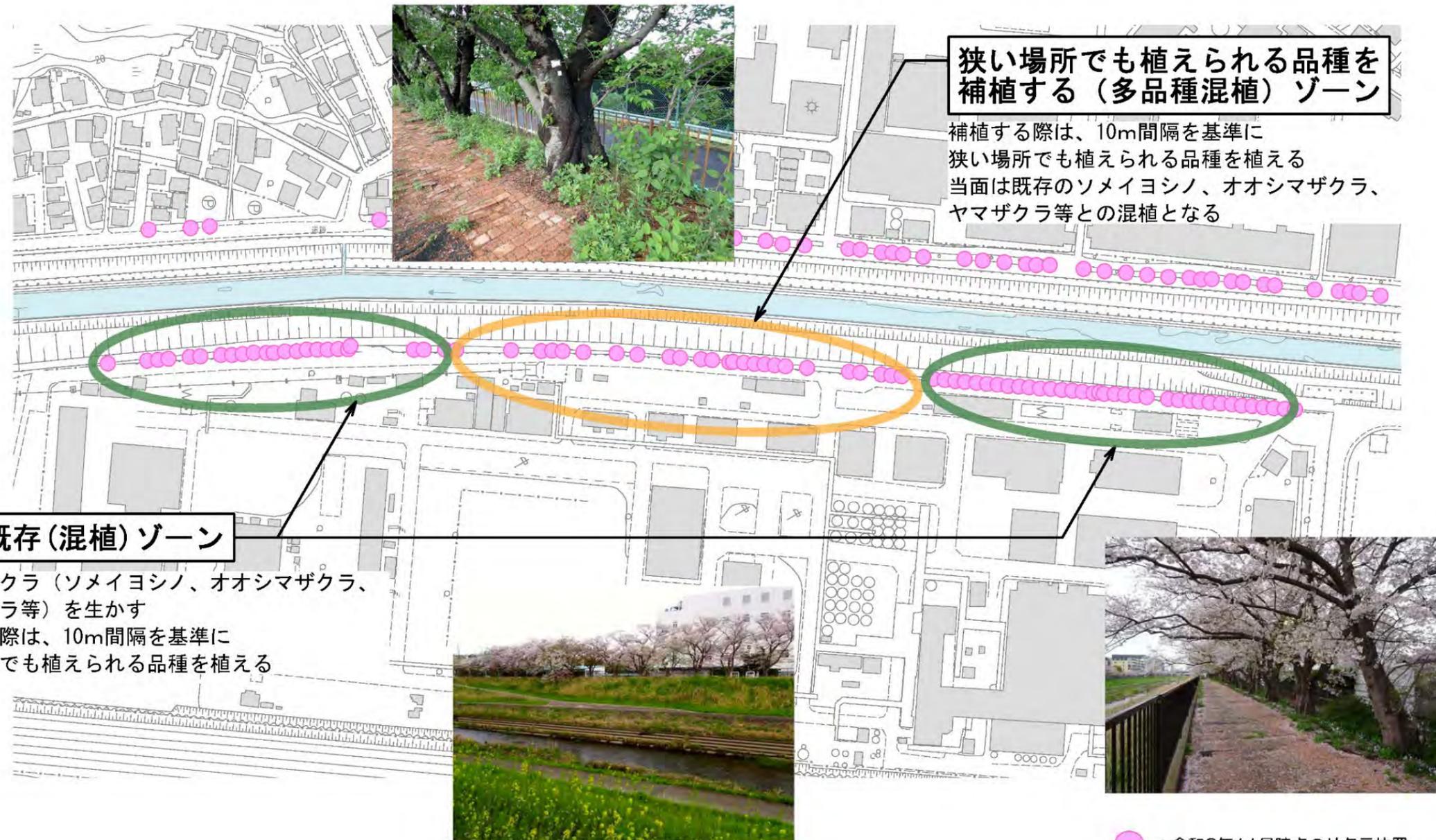
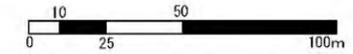


● : 令和6年11月時点のサクラ位置

# エリアC

## 【方針】

現状の植栽帯の奥行きが狭いため、既存のソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラに加え、狭い場所でも植えられる品種を補植する  
花色や開花時期の異なるサクラを楽しむ並木



狭い場所でも植えられる品種を補植する（多品種混植）ゾーン

補植する際は、10m間隔を基準に狭い場所でも植えられる品種を植える  
当面は既存のソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラ等との混植となる

既存（混植）ゾーン

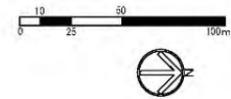
今あるサクラ（ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラ等）を生かす  
補植する際は、10m間隔を基準に狭い場所でも植えられる品種を植える

● : 令和6年11月時点のサクラ位置

# エリアD

## 【方針】

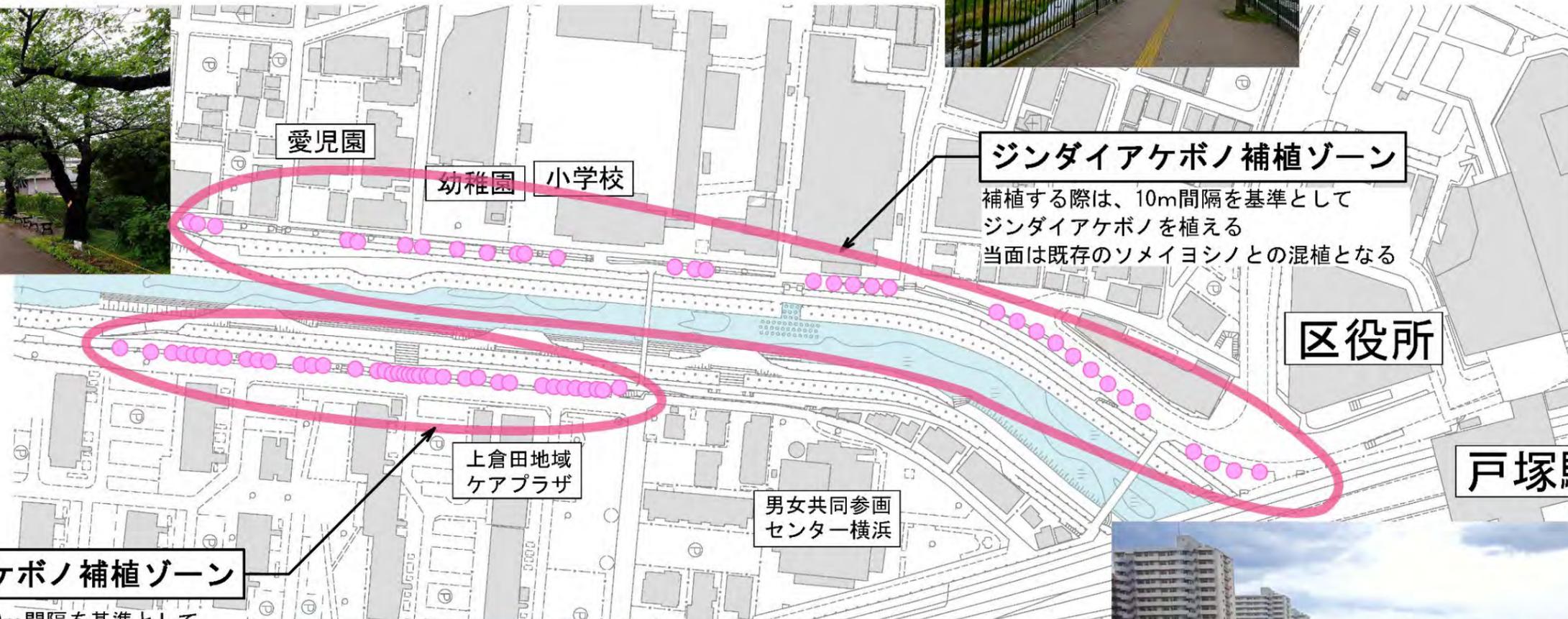
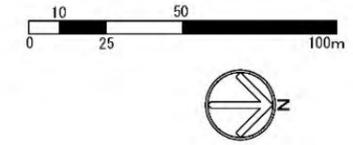
連続した桜並木景観を維持するため、  
ソメイヨシノと近い時期に開花するジンダイアケボノを補植する  
将来的にはジンダイアケボノの並木を形成する



# エリアE 戸塚桜まつりエリア

## 【方針】

連続した桜並木景観を維持するため、ソメイヨシノと近い時期に開花するジンダイアケボノを補植する  
将来的にはジンダイアケボノの並木を形成する



### ジンダイアケボノ補植ゾーン

補植する際は、10m間隔を基準としてジンダイアケボノを植える  
当面は既存のソメイヨシノとの混植となる

### ジンダイアケボノ補植ゾーン

補植する際は、10m間隔を基準としてジンダイアケボノを植える  
ただし、植栽帯が狭い場合は狭い場所でも植えられる品種が望ましい



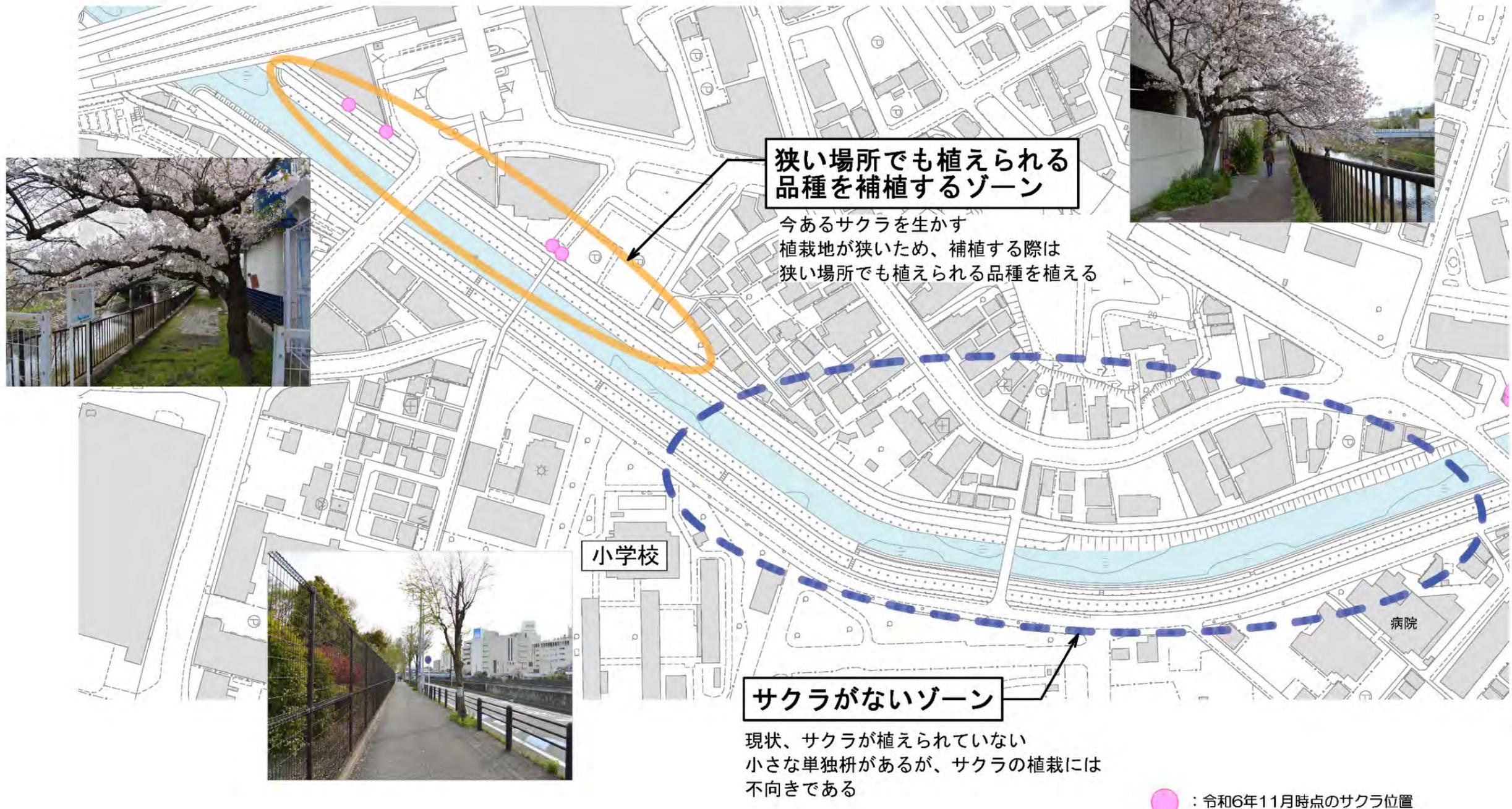
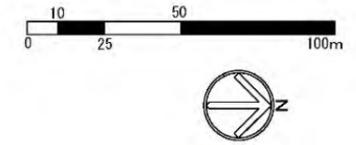
● : 令和6年11月時点のサクラ位置

伐採した後の切株については、腐朽等により道路陥没が生じる、残った根が生長し不陸が生じる等のおそれがあるため、原則伐根していきませんが、エリアEでは例外として、サクラを通じた環境教育のため、通行に支障がない場所において切株を残し、そこから生長する「ひこばえ」を生かすことも検討していきます。

# エリアF

## 【方針】

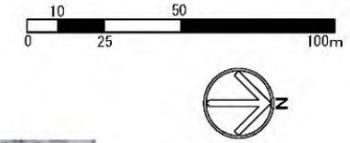
狭い場所でも植えられる品種のサクラを楽しむ



# エリアG

## 【方針】

既存の桜並木を生かし、育てることを第一とする



### 既存(ソメイヨシノ)ゾーン

今あるサクラを生かす  
補植する際は、

- ・ 植栽帯の場合は10m間隔を基準として  
ジンダイアケボノを植える
- ・ 単独柵の場合は狭い場所でも植えられる  
品種を植える



### 狭い場所でも植えられる 品種を補植するゾーン

植栽帯が狭いため、10m間隔を基準として  
狭い場所でも植えられる品種を植える



### 既存(ソメイヨシノ・カンザン)ゾーン

今あるサクラを生かす  
補植する際は、10m間隔を基準として  
狭い場所でも植えられる品種を植える

● : 令和6年11月時点のサクラ位置

#### (4) 維持管理方針

「4(1) 保全・再生に向けた目標・基本方針」に基づき、補植したサクラの管理や通常管理、今後の植え替えについて、目指すべき維持管理を示します。

将来に向けて柏尾川桜並木の景観を継承していくためには、地域の皆様に柏尾川桜並木を身近に感じてもらうとともに、長く愛着を持ってもらうことが重要です。

地域の皆様が保全・再生に参画し、実際に見守り、育てることで、柏尾川桜並木の新たな魅力と価値を創出し、より地域に親しまれる柏尾川桜並木を目指します。そのために、行政による維持管理だけでなく、地域の皆様と協働で行う維持管理方法を検討していきます。

##### 1) 補植したサクラに対する管理

- ・補植したサクラについては、サクラが活着すれば、木がまだ小さいことから、当面の間、管理作業はあまり必要ありません。ただし、将来サクラが大きく生長した後の状態を見越しながら、通行の支障になる枝や、混み過ぎた枝など不要枝の整理を行います。この時期にサクラの枝ぶりを整えておくことが、長く健全な生育状態を保つことに繋がります。(目安となる時期は以下の「補植したサクラに対する管理」(図4-2)を参照。)
- ・こうした管理を7年程度続けた後は、木が大きく生長しているため、通常のサクラの管理と同様となります。

	1年目				2年目				3年目				4年目				5年目	6年目	7年目	
	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋				
補植	●																			
活着確認				●	○ (枯れたものへの補植)															
剪定管理														●					●	
														軽剪定 (建築限界の維持、 混み過ぎた枝の整理)					軽剪定	

補植したサクラに対する管理(図4-2)

##### 2) 通常管理(毎年繰り返す管理作業)

- ・既に植栽されているサクラに対しては、以下の「サクラ管理の年間スケジュール」(図4-3)で管理を行います。
- ・原則5年に1回、定期的に樹木医による診断を行い、診断結果に基づき必要となる剪定や、危険木の伐採を行います。

- ・樹木医による診断結果によりカルテ(台帳)を作成し、桜並木のサクラ1本1本の樹勢など、状態を把握・共有できるようにします。カルテは定期的に更新します。
- ・併せて、桜並木の景観確認をします。そのうえで、必要に応じて植栽間隔のあいた箇所への補植を行います。
- ・行政による維持管理だけでなく、地域の皆様と協働で行う維持管理を検討していく必要があります。

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
サクラの生育		開花	新葉の展開							落葉		
生育状態の確認		花数調査		ベッコウタケ等のキノコの発生状況の確認					枯れ枝・支障枝の確認			
維持管理作業									軽剪定(枯れ枝・支障枝・ひこばえ)			つぼ肥

サクラ管理の年間スケジュール(図4-3)

### 3) 今後の植え替えについて

補植したサクラは、健全な生育状態を保ちながら、できるかぎり長く保全・育成していきます。しかし、老齢樹となれば病害や腐朽により傷みが進むことは避けられません。また、令和5年度の樹木診断では伐採に至らなかったサクラについて、今後の定期的な樹木医による診断によっては、一度に多数の伐採が必要となるケースも考えられます。

そうしたことも予め考慮し、関係部署が、日頃の定期管理の情報について共有し、財政負担の平準化の視点から複数年で計画的に植え替えが行えるよう、予算措置を行っていくことが必要です。

### 4) 住民参加型の維持管理

柏尾川桜並木においては、現在、戸塚桜セーバーの皆様が活動しています。その他にも、地域住民や地域の学校に通う人、近隣の企業に勤務する人など、より多くの方が保全・再生活動に関わり、日常的にサクラを見守ることで、より良い維持管理を行うことができます。

また、地域の皆様と行政が連携して維持管理に取り組むことで、新たな魅力と価値を創出し、より地域に親しまれる柏尾川桜並木を目指します。

住民参加で行うことのできる維持管理について、次に示します。

### ■日常的な点検・観察

- ・病虫害の発生状況や、キノコの発生状況の確認
- ・枯れ枝の有無の確認(特に落枝した場合に通行人の危険を伴うもの)  
地域住民が日常的に桜並木を見守り、点検・観察を行うことは、病虫害や枯れ枝等、サクラの異変の早期発見につながり、大変有効です。

### ■清掃活動

- ・日常的な桜並木の清掃
- ・開花時、落葉時の清掃

### ■サクラの根元保護のための植栽

サクラの周囲に草花や地被植物を植えることで、人の立ち入りなどを抑制し、サクラの根元の土が踏み固められるのを防ぎます。

一年草による花壇植栽は華やかで見栄えがしますが、季節ごとに定期的な植え替えが必要となります。一年草は部分的な利用にとどめ、基本的には常緑の地被植物や、宿根草を用いることで、手間や費用を抑えることができます。

### ■施肥、つぼ肥

弱っているサクラに対して、活力を与えるために肥料を与えます。

「3(5) 課題対応のアイデア」に示したように、サクラの根元にたて穴を掘り、土壌改良材や肥料を混ぜて埋め戻す方法は、住民の方も作業しやすく、サクラにとっての効果も高くなります。

### ■花数調査

サクラは、1つの花芽から複数の花を咲かせます。ソメイヨシノの場合、標準的には1つの花芽から4つの花を咲かせますが、元気なサクラほど、1つの花芽に咲く花の数が多くなります。よって、1つの花芽からいくつの花が咲いているかを調べることで、サクラの元気度を調べようというものです。

花数調査は、サクラの生育状態の判定の指標のひとつです。毎年実施して花数の変化を見ると、生



花数調査をする小学生

育状態の変化を探る手がかりになります。

また、データを取ることとあわせて、様々な人がサクラに興味を持ち、楽しみながらサクラに親しむきっかけづくりとして活用することも有効であると考えます。

専門家の指導のもと、子どもから大人まで調査に参加することが可能です。イベントとして様々な世代の方に参加してもらえると、多世代交流のきっかけにもなります。

#### 【ソメイヨシノが開花するまでの花芽の変化】

		
つぼみが膨らみ先端が色付きだす。 (開花の1週間前程度)。	つぼみが開き、中から小花枝が伸び出す。1つの花芽からは複数の花が出ています。 (開花1~2日前)	花びらが開いて開花。 さあ、お花見だ！！

#### ■樹名板の作成

桜並木に植えられているサクラの品種名を、散策している人々が見てわかるように、樹名板を作成し、設置します。

#### ■サクラに親しむ(利活用)

- ・観察会の開催
- ・剪定枝を活用した工作
- ・剪定枝を活用した樹名板の作成
- ・草木染め:サクラの落ち葉で草木染めができます



剪定枝を活用した工作

## ■PR活動

より多くの人に柏尾川桜並木を知ってもらい、一緒に見守ってもらえるよう、広くPRしていくことも大切です。

柏尾川桜並木の魅力や、イベント、住民参加による維持管理活動の状況を発信し、柏尾川桜並木のファンを増やすことで、さらに多くの人に見守っていただけるようになると考えられます。

これらの維持管理活動は、日常的な点検・観察のように、散策ついでにいつでも誰でもできるようなことから、管理者である行政と十分な打合せのもとに行うべきこともあります。連携して協力体制を構築していく必要があります。

住民参加による維持管理を行うことで、サクラを中心とした人と人のつながりができることも大きな魅力です。

## (5) 柏尾川桜並木の将来像

「4(1) 保全・再生に向けた目標・基本方針」で示した目標「将来に向けて柏尾川桜並木の景観を継承していく」ため、目指すべき柏尾川桜並木の将来像(図4-4)を共有します。

**目標：将来に向けて柏尾川桜並木の景観を継承していく**

～時を超えた景色、未来へつなぐ～

**原風景の継承**

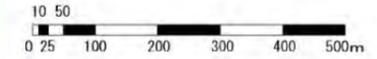
江戸時代から植樹と伐採を繰り返しつつ、全滅の危機を何度も乗り越えて今に至る柏尾川桜並木は、戸塚の原風景と言えます  
将来も変わらず桜並木の景観を楽しめるよう、未来へ引き継いでいきます

**ジンダイアケボノの桜並木**

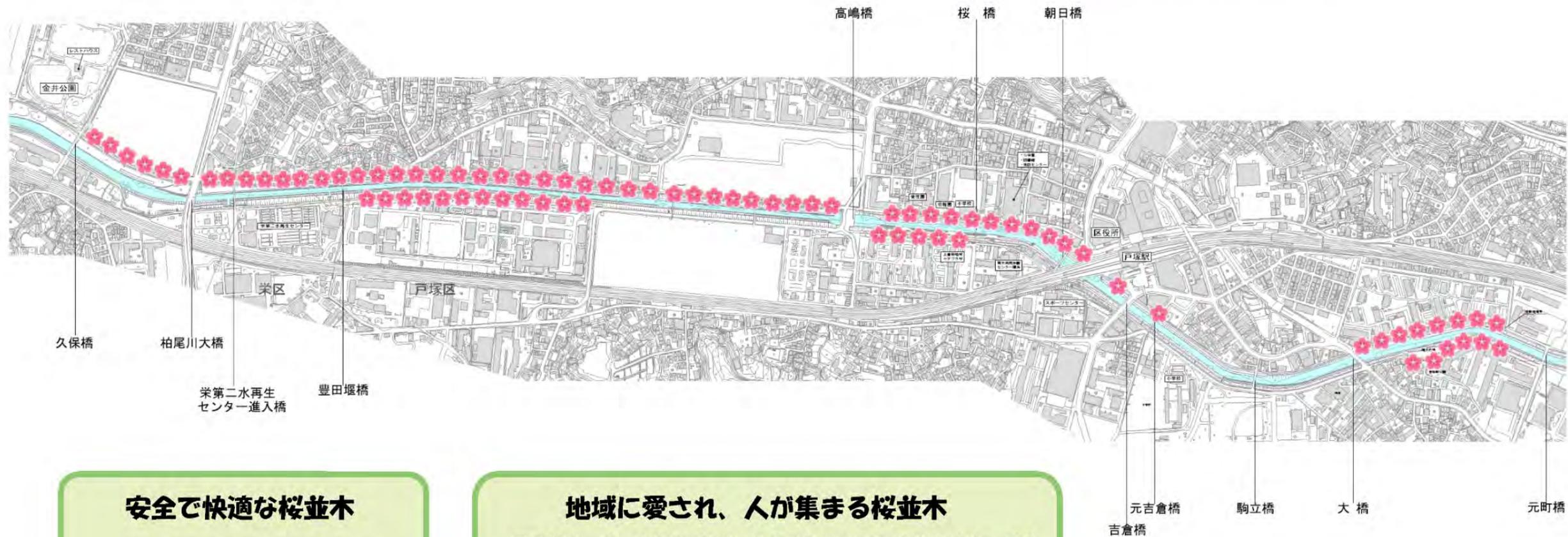
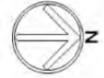
主な品種を、現在のソメイヨシノから、病気に強いとされるジンダイアケボノ中心に転換していき、将来的にはジンダイアケボノの桜並木を形成します

**サクラが健全に生育できる環境づくり**

サクラが美しい花を咲かせ続けることができるよう、健全な生育環境を整えます  
適切な植栽間隔の確保(10m間隔を基準)、剪定、根元の保護、病虫害対応や施肥、土壌改良などの維持管理を適切に行い、健全で美しい桜並木を目指します  
植栽地が狭い場所には適した品種のサクラを植えます



S=1/5,000 (A1)  
S=1/10,000 (A3)



**安全で快適な桜並木**

誰もが安全に通行できる、快適な桜並木を目指します

**地域に愛され、人が集まる桜並木**

戸塚桜セーバーや地域の皆様による見守りや清掃活動が行われ、愛される戸塚のシンボルとなります  
桜が満開となる時期には、桜まつりなどのイベントが開催され、戸塚区内外からより多くの人が集まる、魅力ある桜並木を目指します  
また、桜が咲いていない時期においても、区民、事業者、行政が連携し交流イベントなどを実施し、区民が川に触れ合う機会や賑わい・交流の場をつくり、柏尾川の魅力向上に努めます

## 5 今後の展開

柏尾川桜並木の景観を未来に継承していくため、今後の展開として、ふるさと納税の活用や賑わいの創出など、区民の皆様や企業が柏尾川桜並木の保全・再生に関わり、行政と協働で進めていく取組を示します。

### (1) ふるさと納税

令和11年(2029年)の区制90周年に向けて、柏尾川桜並木の保全・再生に早急に着手し、集中的に実施するため、また、多くの皆様に柏尾川桜並木の保全・再生に関わっていただくことで、柏尾川桜並木や戸塚区への愛着を醸成するため、令和7~9年度の3年度間、市費に加え、ふるさと納税制度等を活用し、新たな財源確保に取り組めます。

ふるさと納税は区民の皆様や区内の事業者も応援いただくことができる「クラウドファンディング型ふるさと納税」と市外に本社がある企業を対象とした「企業版ふるさと納税」の2種類の制度を活用します。

また、より簡便な方法でご支援いただくことが可能となるよう、任意団体による募金箱の設置についても働きかけていきます。

市内・市外を問わずより多くの個人・企業の皆様にご寄附いただけるよう、チラシ・インターネットなどを通じて、広くPR・周知を進めていきます。

### (2) 地域の皆様とともに

柏尾川桜並木の将来像を区民の皆様と共有しながら、現在の景観を将来に引き継いでいきます。

多くの皆様に柏尾川桜並木の保全・再生事業に関わっていただくうえで、柏尾川桜並木を身近に感じていただくため、保全・再生の進展状況を共有するための報告会を実施します。また、区制90周年に向けては、柏尾川桜並木の魅力創出を目的としたイベントを実施し、柏尾川桜並木への愛着を醸成します。

未来につないでいく維持管理としては、区民の皆様とともに、花数調査や、柏尾川桜並木の保護、観察、周辺の清掃等を目的としたイベントを開催します。

将来に向けて柏尾川桜並木の景観を継承していくためには、柏尾川桜並木を保全・再生するだけでなく、未来の戸塚区を担う次世代を育むことも重要です。多くの児童・生徒にサクラへの関心、親しみを持ってもらうため、品種名がわかるよう、樹名板を設置するなどの工夫も検討していきます。

さらに、保全・再生を進めていく中で、近隣区とも連携した、柏尾川全体の景観の一体性も考えた取組も検討していきます。

そして、半世紀以上続く「戸塚桜まつり」についても、その歴史と伝統を継承しながら、保

全・再生により生み出される柏尾川桜並木の新たな魅力を広くPRすることにより、市内だけでなく全国から観光客を誘致できるよう、より一層盛り上げていきます。

以上について地域の皆様と取り組むことで、賑わいの創出や地域活性化につなげていきます。

## 【参考】 検討委員会の開催経過と各回における検討の内容

令和6年5月から令和7年1月にかけて、5回にわたって「柏尾川桜並木保全・再生計画検討委員会」を開催しました。対象区域沿いの地域、企業、団体を交え、以下のプログラムで、柏尾川桜並木の将来像や保全・再生計画について検討を行いました。

### 第1回 「柏尾川桜並木の現状」

令和6年5月17日(金) 17:00~18:00

■検討委員会や柏尾川桜並木の現状について説明します

### 第2回 「柏尾川桜並木の課題と対応について」

令和6年8月8日(木) 16:00~18:00

■柏尾川桜並木の課題を把握し、提案する植栽等の計画について検討します

### 散策会 「柏尾川桜並木の現地確認」

令和6年10月19日(土) 13:00~15:00

■樹木医と一緒に実際に柏尾川桜並木を歩き、解説を聞きながら現状確認します

### 第3回 「柏尾川桜並木の将来像」

令和6年12月11日(水) 16:30~18:30

■戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画の素案を確認し、将来像を共有します

### 第4回 「戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画(案)について」

令和7年1月31日(金) 16:00~18:00

■策定した戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画(案)を共有します

## (1) 第1回検討委員会

テーマ: 柏尾川桜並木の現状

日時: 令和6年5月17日(金) 17:00~18:00

参加人数: 20名

### ■ステップ1 自己紹介

- ・検討委員会のメンバーで自己紹介を行い、一人ひとりが「柏尾川の桜並木に対する私の思い」を書いて発表しました。

### ■ステップ2 柏尾川桜並木について

- ・戸塚区より、柏尾川桜並木の現況と柏尾川桜並木計画について説明を行い、今後の検討委員会のスケジュールやプログラム、検討する内容等について確認しました。



## (2) 第2回検討委員会

テーマ: 柏尾川桜並木の課題と対応について

日時: 令和6年8月8日(木) 16:00~18:00

参加人数: 16名

### ■ステップ1 柏尾川桜並木の現況と課題

- ・サクラ及びソメイヨシノについて、樹木医から説明を行いました。
- ・柏尾川桜並木の現況分析とそこから見出された課題について説明を行いました。

### ■ステップ2 課題に対するアイデア

- ・保全・再生計画の基本的な考え方や目標、ステップ1で確認した課題に対するアイデアを示しました。また、検討しているサクラの品種について説明を行いました。



### (3) 柏尾川桜並木散策会

テーマ: 柏尾川桜並木の現地確認

日時: 令和6年10月19日(土) 13:00~15:00

参加人数: 12名

#### ■ 散策会

- ・ 柏尾川桜並木の現況や課題について、実際に見て知るために、現地散策会を開催しました。樹木医の解説を聞きながら柏尾川プロムナードの戸塚桜まつりエリアを歩き、サクラの植栽間隔等を確認しました。



### (4) 第3回検討委員会

テーマ: 柏尾川桜並木の将来像

日時: 令和6年12月11日(水) 16:30~18:30

参加人数: 15名

#### ■ ステップ1 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画素案 ~課題に対するアイデア~

- ・ 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画素案の前半部分について、戸塚区から説明を行い、内容や構成を確認しながら、検討委員で共有しました。
- ・ 第2回検討委員会で確認した課題③~⑤について、課題対応のアイデアを示しました。

#### ■ ステップ2 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画素案

~維持管理、桜並木の将来像~

- ・ 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画素案の後半部分について、戸塚区から説明を行い、共有しました。
- ・ 桜並木の維持管理の方針について、樹木医より説明しました。また、住民参加型で行われている維持管理や利活用の事例を紹介しました。



## (5) 第4回検討委員会

テーマ: 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画(案)について

日時: 令和7年1月31日(金) 16:00~18:00

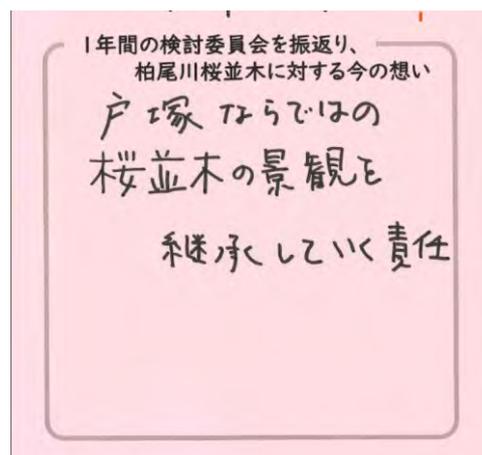
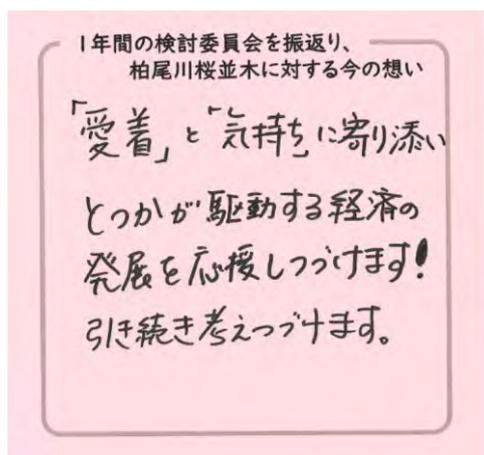
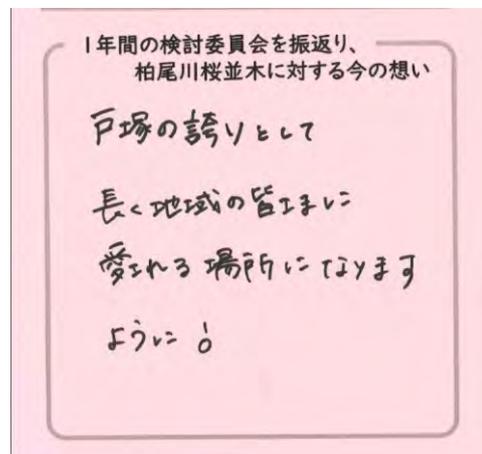
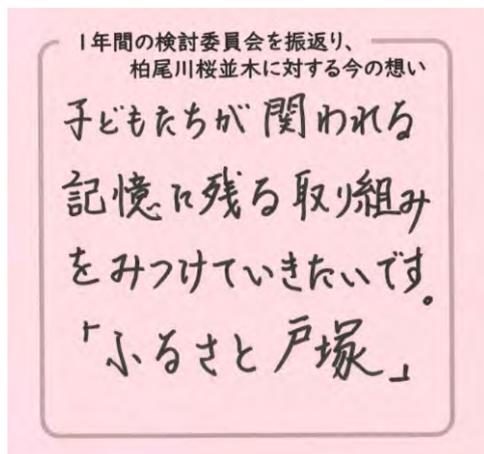
参加人数: 17名

### ■ステップ1 戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画(案)

・戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画(案)について、戸塚区から説明を行い、検討委員で共有しました。

### ■ステップ2 1年間を振り返って

・これまでの柏尾川桜並木保全・再生検討委員会を振り返り、改めて柏尾川桜並木に対する想いを書いて発表しました。その中から一部抜粋してご紹介します。



## 【資料】

### ■参考文献

「日本の桜」勝木俊雄 学習研究社(2009)

「新日本の桜」木原浩、大場秀章、川崎哲也、田中秀明 山と溪谷社(2007)

「さくらを守る」NPO 法人東京樹木医プロジェクト(2011)

「千代田区さくらマップ」NPO 法人東京樹木医プロジェクト(2024)

### ■写真提供

和田博幸

美濃又哲男

■ 柏尾川桜並木保全・再生計画検討委員会 委員名簿

企業/団体名	(順不同)
(株)日立リアルエステートパートナーズ	
中外製薬(株)	
東急不動産SCマネジメント(株)	
(株)丸井	
東日本旅客鉄道(株)	
大洋建設(株)	
戸塚小学校	
東戸塚小学校	
明治学院大学	
戸塚桜セーバー	
柏尾川魅力づくりフォーラム	
認定NPO法人 こまちぶらす	
戸塚第一地区連合町内会	
戸塚第二地区連合町内会	
戸塚第三地区連合町内会	
上倉田地区連合会	
下倉田地区連合会	
吉田矢部地区連合会	
戸塚区商店街連合会	
戸塚区観光協会	
事務局	
戸塚区 区政推進課	
戸塚区 戸塚土木事務所	
道路局 施設課	
株式会社アトリエ福	
樹木医 美濃又哲男	



令和7年3月発行

発行:戸塚区役所区政推進課

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17

TEL 045-866-8327/FAX 045-862-3054